

女性の老後と資産運用観

アンケート自由回答欄とグループインタビューの結果から

ポイント

- 09年4月に実施した「女性に対する老後と資産運用のアンケート」の定量分析は「女性と老後と資産運用」(09年5月)にまとめた。そのアンケートの自由回答欄に寄せられたコメントで多用された言葉をつなぎ合わせると、「年金保障への不安」、「もっと介護施設を増やすべき」、「資産運用はリスクが高いので余裕資金で」といった6000人を超える女性の生の声が浮かび上がる
- 定量分析で得られた5つの提案を、フォーカス・グループインタビューで定性的に検証した。結果、「誰かと相談する」、「年金の実態を知る」についてはイメージとして資産運用へのきっかけになりそうだが、「自分名義の金融資産口座」、「介護の実態を知る」については明確な答えは出なかった。専業主婦が働くことと資産運用を択一的にみていることが観察された。
- 定量分析と定性分析の両方から推察されることは、5つの提案は資産運用の第一ステップとしては、「気づき」をもたらすものとしてきっかけになりそうだが、それだけでは資産運用にまで行き着かない。「資産運用に対するネガティブなイメージの払拭」が第二ステップとしては大きな課題と言えそう。
- フォーカス・グループインタビューからみると、資産運用のネガティブイメージの根源としては、「まとまった資金が要る」、「儲かることが少なく損をする可能性が高い」、「手続きが面倒」といった面を指摘する声が観察された。
- インタビューの最後に、積立投信について説明したところ、非常に多くの被験者が関心を示し、「やってみてもいい」という反応を示したうえで、「こういった投資商品が実際にあるということをもっと教えるべきだ」というコメントも聞かれた。

目次

調査概要

- 女性6625人の生の声
アンケートの自由回答から
 - 年金
 - 介護
 - 資産運用
- グループインタビューでの生の声
 - 5つの提案への反応
 - 提案1:誰かと話をする
 - 提案2:自分名義の資産運用口座を作る
 - 提案3:年金支給額を知る
 - 提案4:介護の実態を知る
 - 提案5:働くことと資産運用の二者択一を避ける(専業主婦に)
- 資産運用への第一歩
 - 資産運用への第一ステップ
 - 資産運用への第二ステップ

<フォーカス・グループインタビュー調査概要>

- 調査会社: Ipsos日本統計調査株式会社
- 実施時期: 2009年5月29日、30日、6月1日
- 調査方法: フォーカス・グループインタビュー方式
- 調査対象: 首都圏在住の30-59歳女性で主婦グループは世帯年収が450万円以上、有職者グループは個人年収が300万円以上。各グループ6名で内2名が投資経験あり。各2時間ずつのインタビュー。専業主婦、有職・既婚、有職・未婚の各グループに年齢で30-44歳と45-59歳の2グループを用意し、都合6グループ実施
- 調査目的:
 - ① 定量分析で得た4つの提案、
 1. 誰かと老後や資産運用について話をしてみませんか
 2. 自分名義の金融資産口座を作ってみませんか
 3. 自分がどれくらいの年金を支給されるか気にかけてみませんか
 4. 介護の実態を調べてみませんかを定性的に検証する（上記4提案については、先行レポート「女性と老後と資産運用」（フィデリティ退職・投資教育研究所、2009年5月）を参照）
 - ② 専業主婦グループに、資産運用することと働くことが択一的になっているかどうかを確認する
 - ③ 資産運用を考えてもらうためのヒントを探る

フィデリティ退職・投資教育研究所では、09年4月に30-59歳の女性を対象に6625人が参加したインターネット・アンケートを実施し、その結果は、定量分析をもとにレポート「女性と老後と資産運用」(2009年5月)にまとめた。その後、その調査のフォローアップとして、フォーカスグループによるグループインタビュー調査を行い、定性的な側面から女性の老後観と資産運用観を探った。今回のレポートでは、前回のアンケート調査で寄せられた、年金、介護、資産運用に関する膨大な自由回答欄への記載の分析と合わせて、フォーカス・グループインタビューでの女性の生の声を紹介する。

結果として、前回のレポートで言及した5つの提案は「資産運用に直結するとは言い切れないものの、何らかのきっかけになりそう」との兆候を得た。その一方、依然、資産運用＝ギャンブルとの認識が強く、その払拭が次のステップということが改めて確認できた。なお、その払拭策のひとつとして、積立投信の将来性を強く感じる事ができた。

1 女性6625人の生の声—アンケート自由回答から

09年4月に30-59歳の女性を対象に実施したインターネット・アンケートでは、6625人が参加し、年金、介護、資産運用の3点に関する自由回答欄には、ほぼ全員の記述をいただいた。それぞれの自由回答欄は特に何について記載して欲しいという指定をしておらず、年金、介護、資産運用、それぞれについて「ご自身の考え方をご自由にお書き下さい」としていることから、現在の自分の状況を吐露するコメント、辛らつな批判のコメントなど多様な内容となった。しかし、それゆえに現在30-59歳の女性が抱えている問題点が浮き彫りになったといえよう。

ここでの分析ではまず、年金、介護、資産運用の項目ごとに、自由回答欄で多用されている「言葉」を抽出した。それによって6000人近い女性の平均的なコメントが浮かびあがってくる。これを、年代別、属性別に分けることで、さらにそのコメントの背景もうっすらと見えてくる。また、実際に寄せられたコメントで代表的と思われるものを年代別、属性別に取りまとめることで、より実感としてその内容を汲み取ることができよう。

【年金】

全世代、既婚未婚、有職無職を問わず「保障」という言葉が最も多く使われている。そのために「税金」でカバーするべきという声が多くなっている。次に続くのが「不安」という言葉だが、これには年齢別の特徴がはっきり表れており、30歳代が最も「不安」という言葉を使っていることがわかる。若年世代ほど、年金への不安が大きいことがわかる。それゆえに「もっと」や「きちんと」とした言葉で要請をするコメントが多くなった。一方「安心」できるようにするためには、「無駄」を省くべきとの声が若年層から比較的多く出ている一方で、高齢層からは保険料の「未納」問題を取り上げているのが多いのも特徴だ。年金制度の維持、廃止に関しても別の設問でほぼ拮抗しているデータが出たとおり（「女性と老後と資産運用」、09年5月を参照）、自由回答でも「廃止」258件、「維持」226件とほぼ同じ件数となっている。

図表 1 年金に関する自由回答の用語検索結果

分野	用語	無職既婚者				有職未婚者				有職既婚者			
		総計	30歳代	40歳代	50歳代	総計	30歳代	40歳代	50歳代	総計	30歳代	40歳代	50歳代
年金	総件数	2974	1000	970	1004	1528	498	517	513	1461	511	474	476
	保障	355	126	112	117	185	71	57	57	170	61	55	54
	不安	197	99	54	44	127	44	42	41	107	43	32	32
	税金	184	88	51	45	137	44	41	52	142	59	41	42
	無駄	167	87	48	32	114	31	39	44	87	31	31	25
	安心	163	84	39	40	81	21	27	33	84	20	21	43
	きちんと	148	81	35	32	94	32	42	20	99	39	35	25
	もっと	134	70	41	23	94	27	33	34	98	30	35	33
	廃止	96	49	23	24	85	25	35	25	77	25	27	25
	維持	91	42	22	27	64	13	24	27	71	26	24	21
	未納	75	15	5	55	70	9	4	57	62	5	3	54
	しっかり	74	40	14	20	53	21	16	16	52	14	17	21
	破綻	71	35	18	18	48	16	18	14	42	19	13	10
	不公平	63	28	18	17	61	22	20	19	46	9	19	18
	確実	60	31	17	12	40	14	13	13	25	11	10	4
	少子化	46	25	12	9	22	8	3	11	33	12	11	10
	自己責任	37	16	8	13	41	17	14	10	34	12	10	12
	生活保護	33	18	6	9	61	15	24	22	48	14	14	20
	保険料	32	18	5	9	42	9	12	21	34	11	6	17
	無理	32	11	8	13	30	6	15	9	31	12	9	10
	高い	30	13	8	9	26	11	6	9	25	8	10	7
	期待	26	13	6	7	28	13	6	9	31	18	7	6
	社会保険庁	21	14	6	1	34	7	7	20	24	4	12	8
	減る	20	12	5	3	16	1	10	5	16	8	3	5
	不透明	16	8	4	4	13	5	5	3	15	8	3	4
	世代間	14	8	2	4	35	14	14	7	22	7	13	2
やめる	13	4	4	5	7	3	3	1	8	2	4	2	
雇用	9	4	4	1	10	3	2	5	14	8	2	4	
期待できない	9	3	2	4	7	4	0	3	3	3	0	0	
増税	6	4	2	0	7	2	4	1	5	3	0	2	

(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所「女性と老後と資産運用」に関する調査(2009年4月実施)、以下図6まで

こうしたデータから想定される声を集めると、「老後の生活を保障するのが年金なのに今のままでは不安。税金を使ってもいいので、もっと、きちんとした制度で維持すべき。ただし年金運営に関して無駄はもっと省くべき、一方で未納の問題も解決すべき」といったものが、最大公約数的なコメントといえよう。その他、具体的な声を図2にリストした。

図表 2 年金に関する自由回答例

	30 歳代	40 歳代	50 歳代
無職既婚	「高齢者のご機嫌を取って高齢者保障ばかりしていくのは納得がいかない」、「世代間扶養には限界がある」、「納めた分は保障して欲しい」	「苦勞して育てた自分たちの子供が子供を育てていない人達に分まで負担するのは納得できない」、「未納者が多い」 「出来ることなら脱退したい」、「社会保険庁の見直しをするべきだ」	「もらえる金額を増やすべきだと思う」、「公約を守って欲しい」、「本来なら老後は年金だけで生活できるのが望ましい」、「年金定期便を受け取ったが金額的にかなり厳しいものだった」
有職既婚	「やはり最低限の生活が出来るよう保障して欲しい」、「せめて今まで自分が支払ってきた年金分は老後自分に返して欲しい」、「国がもっときちんと整備すべき」、「田舎に高速道路を作る等の無駄遣い分を年金に当てて世代間扶養のシステムを廃止すべき」	「安心して、暮らせる保障は政府がすべき」、「消費税を上げて、全員が最低限をもらえるようにする」、「老後も自立できるように蓄えをしないといけない」、「公務員や議員の年金は一般の人に比べ手厚いと思う」	「思わしくない使い方をされるならいっそのこと廃止してもらってよい」、「国民みんなから、しっかり回収し、計画的に平等に活用したい」、「年金制度も維持できない政府なら必要なし」
有職未婚	「世代や性別を超えて平等であるべき」、「年金一元化」、「年金も健康保険もとにかく制度も手続きもややこしい。もっと簡略化して窓口も一本化すれば・・・」	「政府は無駄なことを廃止して、年金制度を維持できるよう今まで以上に努力すべき」、「保険料を負担すべき人が不公平無く全員支払う仕組みにすべき」、「不透明すぎる」	「専業主婦の優遇を廃止すべき」、「まじめに働いてきた高齢者にとって手厚くして欲しい」、「国民が年金の使い方をチェックできる制度を作ること」

【介護】

介護に関する自由回答で多用された用語は、「施設」、「もっと」、「国」、「負担」、「家族」、「お金」、「不安」、の順。これらの中で特徴となっているのは、こうした多用された各用語がほとんど30歳代よりも50歳代で頻度が多くなっていること。逆に若年層ほど使われている言葉は、「ヘルパー」、「プロ」、「少子化」、「不足」、など。特に、「ヘルパー」、「プロ」といった言葉が高齢層よりも若年層に多いのは、こうしたサービスを意識する女性が増えていることを示唆している。また、若年層は「介護する」立場からの意見が多く、高齢層になると徐々に「介護される」立場の見方が増えてくる。

図表 3 介護に関する自由回答の用語検索結果

分野	用語	無職既婚者				有職未婚者				有職既婚者			
		総計	30歳代	40歳代	50歳代	総計	30歳代	40歳代	50歳代	総計	30歳代	40歳代	50歳代
介護	総件数	2898	954	944	1000	1466	473	487	506	1383	481	441	461
	施設	629	181	184	264	279	79	84	116	263	83	83	97
	もっと	517	194	167	156	224	75	72	77	202	80	65	57
	国	470	149	155	166	256	71	89	96	265	87	83	95
	負担	241	74	77	90	97	33	25	39	144	44	50	50
	家族	213	72	53	88	104	30	34	40	103	27	38	38
	お金	204	83	61	60	72	23	24	25	70	24	21	25
	不安	192	61	62	69	92	22	42	28	99	30	29	40
	介護する	173	49	45	79	81	12	35	34	84	21	22	41
	費	169	54	65	50	146	40	46	60	106	39	37	30
	制度	165	60	53	52	57	15	13	29	59	29	15	15
	ヘルパー	153	68	46	39	76	35	18	23	73	34	22	17
	高齢化	125	37	42	46	63	23	22	18	55	23	19	13
	問題	105	48	35	22	40	14	15	11	33	18	9	6
	給料	103	33	24	46	60	11	21	28	58	13	16	29
	費用	99	26	31	42	68	11	26	31	50	11	15	24
	政府	96	32	28	36	62	24	19	19	48	25	13	10
	不足	89	38	28	23	56	21	20	15	44	22	8	14
	今後	85	28	28	29	52	13	22	17	40	9	14	17
	税金	83	19	27	37	28	10	9	9	27	11	5	11
	老老	80	28	29	23	39	14	18	7	21	5	9	7
	わからない	79	28	24	27	40	13	9	18	42	11	19	12
	プロ	74	30	26	18	40	18	11	11	28	10	7	11
	これから	67	27	17	23	34	7	16	11	31	14	3	14
	介護士	64	16	18	30	29	9	9	11	39	11	13	15
	待遇	59	14	19	26	25	9	7	9	17	6	5	6
	年金	54	24	15	15	34	13	11	10	44	13	22	9
	心配	51	19	19	13	12	5	4	3	24	11	6	7
保障	50	16	13	21	18	5	4	9	13	2	5	6	
少子化	50	21	15	14	20	11	5	4	20	9	7	4	

こうしたデータから想定される声を集めると、主に、「介護施設が足りない現状を国はもっと改善してほしい。介護の負担を家族にかけないためにはヘルパーやプロの介護が必要で、そのためにはお金がかかる。それが出来るかどうか不安」という声に集約される。そのほか介護に関する自由回答の中から拾い出した生の声を図4に掲載した。

図表 4 介護に関する自由回答例

	30 歳代	40 歳代	50 歳代
無職 既婚	「介護施設を国営化したほうがいい」、「地域サービスの充実」、「介護は子供を当てにせず、自分とパートナーでお金の準備をしておくべき」、「子供世代の出生率を上げる対策が必要」	「安い費用で利用できる施設を増やす」、「外国人に頼っていかねばならないと思う」、「介護で働く人の賃金をもっと上げるべきだと思う」、「家族より介護施設のプロの人たちにお世話になることが普通になると思う」	「ヘルパーの事業を市がするべきだと思う」、「介護保険と健康保険の両立」、「介護難民が増えていくように思う」、「介護保険を充実させていかねばならないと思う」、「国が手厚く保障するようにすべきと考える」
有職 既婚	「介護専門施設の料金が高すぎる」、「もっと介護する側の肉体的・精神的負担を軽減するべき」、「無駄に使っている税金を国民のために使って欲しい」	「ヘルパーさんの充実」、「子供がいないので不安」、「姥捨て山状態」、「漠然とした不安」、「子供に頼らず、プロに任せた方がお互いのために良いと思う」	「他人事ではなく、自分のこととして考えないといけない」、「介護ヘルパーを増やす」、「外国人を増やす」、「高い税金・年金も老後を託せるなら払う」、「延命しない」
有職 未婚	「老老介護が増えると思う」、「お金がかかりそうだ」、「政府は積極的に介護への補助や施設の増設を行うべき」、「介護については現実的に何も考えたことは無い」	「安心して介護を受けられるように」、「もっと政府の細やかな対応が必要」、「高齢化社会になり、今より不安が大きくなると思う」、「介護従事者が少なく心配」、「国が保証して欲しい」	「家族に負担をかけない方法を考えるべき」、「最低限の生活は国が面倒をみて欲しい」、「ヘルパーの充実」、「自己負担が多なりそう」、「身近に感じる問題で一番気になる」

【資産運用】

資産運用に関する自由回答で多用された用語は、突出して「リスク」である。リーマンショック後のアンケート調査であることも影響しているだろうが、それにしても「資産運用=リスク」が非常に強く意識されている。次が「余裕」、「勉強」、「株」、の順となっている。ほかと比べると、有職・無職、既婚・未婚での差が出ている方だ。例えば、無職・既婚者が「リスク」を挙げ、資産運用に否定的なコメントが多い。一方、有職・既婚者が「勉強」を比較的多く挙げていること、有職・未婚者が「必要」という言葉を挙げているのが多いこと、が特徴といえそう。

図表 5 資産運用に関する自由回答の用語検索結果

分野	用語	無職既婚者				有職未婚者				有職既婚者			
		総計	30歳代	40歳代	50歳代	総計	30歳代	40歳代	50歳代	総計	30歳代	40歳代	50歳代
資産運用	総件数	2875	957	926	992	1493	490	497	505	1403	495	450	458
	リスク	937	291	307	339	504	168	168	168	459	146	175	138
	余裕	285	106	89	90	156	61	51	44	130	53	46	31
	勉強	184	78	58	48	88	32	29	27	101	45	26	30
	株	165	52	47	66	79	22	25	32	74	20	27	27
	興味	117	50	35	32	63	28	21	14	49	20	10	19
	貯蓄	116	37	46	33	49	11	19	19	61	20	15	26
	確実	110	31	44	35	39	11	12	16	49	18	19	12
	わからない	104	43	36	25	61	19	20	22	52	15	20	17
	元本	102	35	35	32	50	15	17	18	41	15	14	12
	知識	100	49	30	21	81	29	34	18	46	23	16	7
	預金	97	35	24	38	48	16	15	17	35	12	9	14
	怖い	91	39	23	29	35	13	12	10	33	13	11	9
	必要	85	28	34	23	78	28	29	21	54	20	21	13
	不安	84	31	20	33	41	8	19	14	43	17	11	15
	保証	81	19	26	36	39	10	17	12	31	12	11	8
	堅実	73	17	27	29	33	7	11	15	40	14	15	11
	難しい	58	28	14	16	36	13	12	11	20	5	4	11
	安定	57	8	19	30	32	13	9	10	23	5	10	8
	老後	49	8	10	31	21	8	6	7	23	9	8	6
	素人	48	25	13	10	14	5	6	3	18	8	6	4
	定期預金	44	16	10	18	24	10	9	5	15	6	4	5
	分散	42	12	12	18	31	6	11	14	27	9	12	6
	失敗	40	18	12	10	28	9	7	12	24	11	7	6
	投資信託	39	6	13	20	15	3	7	5	17	4	5	8
	安心	35	12	11	12	17	6	7	4	16	3	5	8
	教育	31	10	15	6	3	2	0	1	9	4	3	2
	保障	30	6	16	8	10	5	3	2	16	5	6	5
欲	30	7	9	14	17	4	5	8	10	4	2	4	
金額	28	13	10	5	13	5	5	3	13	3	4	6	

ただ、総じて言えることは、「資産運用はリスクが高いのでやらない」、または「資産運用はリスクが高いので余裕資金で行うべき」というネガティブなコメントが多い。その他の声も合わせて図6でまとめた。

図表 6 資産運用に関する自由回答例

	30 歳代	40 歳代	50 歳代
無職 既婚	「リスクがあるのでしようと思わない」、「余裕資金が出来たらきちんと勉強して…」、「貯蓄を確実にしていってあげ」、「知識と経験が無いと難しい」、「元本割れの無いように運用したい」、「賭けのようなイメージ」	「リスクを考えると出来ない」、「資産運用は博打と同じである」、「必要不可欠なもの」、「貯金に回す」、「資産運用は安心確実が一番」、「自己責任の時代」	「余裕資金で、自己責任で行うものだと思う」、「リスクを犯してまで資産運用したいとは思わない」、「現在損が大きいので投資チャンスだと思ってもつぎ込むことは出来ない」、「なかなかリスク分散の仕方がわからず苦労している」、「夫に任せてある」
有職 既婚	「大きな損失が生じない程度でやりたい」、「余裕のある範囲で投資していきたい」、「リスクが怖くて手が出せない」、「収入が増えれば資産運用に回したい」、「余裕がないとできない」	「リスクがあるので怖い」、「分散投資が重要」、「運用より貯蓄」、「リスクを伴う商品は余裕資金で行う」、「今までに株などですごい損をしている。もう懲りた」	「資産運用するほど余裕がない」、「資産運用で失敗しているので、これからは着実に貯蓄したい」、「投資することは社会貢献や経済の活性化につながるの、なるべく積極的に投資したい」
有職 未婚	「方法やリスクについてわかりやすく教えてくれる場があればいいと思う」、「老後の資金をためるのに資産運用は必要」、「安定志向」、「危険」、「リスクを負うものは避けたい」	「資産運用は怖い」、「余裕がないとできない」、「リスクのある資産運用は将来のことを考えると敬遠してしまう」、「金融危機で今後一切手を出さないことにした」、「知識の無い人間が手を出すと痛い目にあう」	「危険なものには手を出さない」、「地道が一番」、「資産運用の仕方もわからないしリスクがあって怖い」、「元本割れのしないもので運用」、「当分静観する」、「ある程度の積極性は必要だと思う」

2 グループインタビューでの生の声

6625人の女性を対象にしたアンケート調査に定量分析を行い、女性に資産運用への第一歩を踏み出していただくための5つの提案をまとめた(詳細はフィデリティ退職・投資教育研究所「女性と老後と資産運用」、2009年5月を参照)。具体的に5つの提案とは、

1. 誰かと老後や資産運用について話をしてみませんか、
2. 自分名義の金融資産口座を作りませんか
3. 自分がどれくらいの年金を支給されるか気にかけてみませんか
4. 介護の実態を調べてみませんか
5. 専業主婦の方に、再び働くとしても資産運用は今から始めませんか

この提案をフォーカス・グループインタビューで、実際に6組36人の女性に提案し、その反応とそこから具体的に資産運用につながるヒントを探した。上記1~4に関してはすべてのグループに、上記5に関しては既婚・無職(専業主婦)の女性2グループのみに提示した。なお、提案の5に関して、このインタビューでは、「働くことと資産運用が択一的になっている」という仮説を検証することを主題とした。

調査の概要

- 実施時期: 2009年5月29日、30日、6月1日
- 調査方法: フォーカスグループインタビュー方式
現在の生活の現状や課題、将来の生活の期待や懸念などからはじめ、上記4つの提案に関して、実際に資産運用を始めるきっかけになるかを確認し、最後の5つ目の提案に関しては、資産運用と働くことが択一的に考慮されているかどうかを確認した。
- 調査対象: 首都圏在住の30-59歳女性で主婦グループは世帯年収が450万円以上、有職者グループは個人年収が300万円以上。各グループ6名で内2名が投資経験あり。各2時間ずつのインタビュー。
 - ① 専業主婦 30-44歳
 - ② 専業主婦 45-59歳
 - ③ 有職・既婚 30-44歳
 - ④ 有職・既婚 45-59歳
 - ⑤ 有職・未婚 30-44歳
 - ⑥ 有職・未婚 45-59歳

5つの提案への反応

【誰かと話をする】

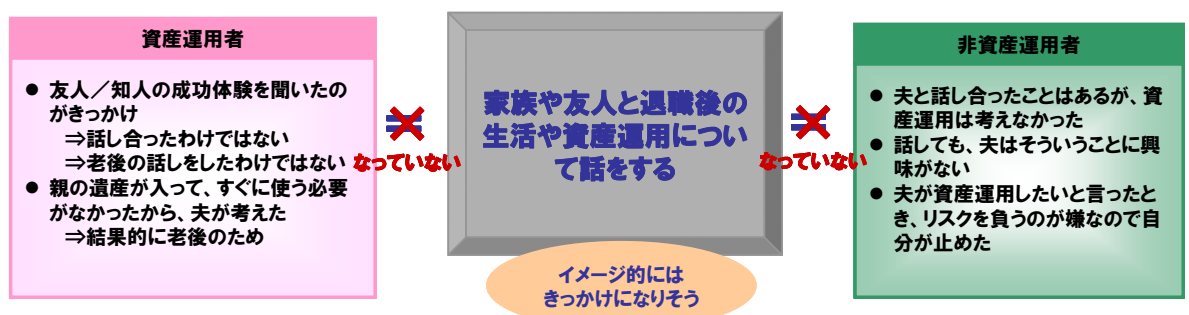
フォーカス・グループインタビューの結果では、第一印象として、「誰かと資産運用や退職後の生活の話をする」ことが資産運用のきっかけになりそうと回答する女性が多かった。ただ、被験者のなかで実際に「誰かと退職後や資産運用について話し合ったことが運用のきっかけになった」という人はいなかった。もちろん、知人、友人から運用の成功体験を聞いた、親の遺産が入ったときに夫と話したという意見があったが、必ずしも積極的な意味での「話し合った」というものではなかった。

ただ、今回のグループインタビューを通じて、各グループに運用経験者が2名ずつ参加していたことで資産運用について自分と同じ目線で議論することができたようだ。インタビューの終わりにそれぞれが「参考になった」という感想を漏らしていたことは、この提案が持つ潜在的な効果を示しているようで、示唆がある。

図表 7 「誰かと資産運用や退職後の生活の話をする」は資産運用のきっかけになるか

	30-44 歳	45-59 歳
無職 既婚	夫と話をすると子供のことばかり(投資未経験者)	投信購入の際に「退職後の生活はこのぐらいかかって年金がこれくらいだから、これくらいの捻出は不可欠」という話をした(投資経験者)
有職 既婚	母が倒れた時、「これから先どうするか」という保険会議を家で開いて、主人と二人で考えたことがあったので、きっかけ、起爆剤にはなるかなと思う(投資未経験)	夫と話をしたことはあるがあまり真剣にならない。ただ、もうちょっと突き詰めて話してみたら運用していくようになるかもしれない。(投資未経験)
有職 未婚	姉が投信をやっているのを聞いて、自分も始めた(投資経験者)。話を聞いても、その場で終わっている感じ(投資未経験者)	妹が株をやっているが、妹はお金があるから(投資未経験者)。兄弟でのお金の話はしづらい(投資未経験者)

図表 8 「誰かと資産運用や退職後の生活の話をする」は資産運用のきっかけになるか



【自分名義の金融資産口座】

2つ目の提案は「女性自身の名義の金融資産口座を作る」ことだが、被験者より金融資産口座の意味がわからないという疑問が多く出された。専業主婦も含めほとんどの女性が自分名義の銀行口座、いわゆる「生活のための口座」を持っていることから、自分名義の口座は持っていることが強く意識されていた。そのため、「なぜこれが資産運用のきっかけといえるのか？」という疑問につながったようだ。ただ、会話の中で、それとは別の「資産運用のための口座」であるということが分かり始めたことで、少し賛意が強まったことが観察された。それでも直接資産運用につながるとの意識はなかった。なお1名だけが、以前に「とりあえず証券口座を作った」ことで、また資産運用を始めようという気持ちを後押ししたとの意見もあった。

図表 9 「自分名義の金融資産口座をつくること」は資産運用のきっかけになるか

	30-44 歳	45-59 歳
無職 既婚	老後になったらやるつもりでとりあえず口座だけ作ろうと思った。そのときに会社によって手数料が違うと知り、いろいろ調べた(投資経験者)。何の意味だかわからなかった(投資未経験者)	金融資産口座という意味がわからないが、うちの母は完璧に家の口座と自分名義の口座は分けていた(投資未経験者)。誰かと話すということと合わせて考えるとちょっと背中を押されるかなって感じがする(投資未経験者)
有職 既婚	自分の資産を貯めようと躍起になると思う(投資未経験者)。金融資産口座という言葉が曖昧な定義なので、わかりにくい。ただ自分名義の口座で目減りしていると悲しくなる(投資経験者)	(振込口座以外に)別の口座を作ったからどうとは思わない(投資経験なし)。きっかけになるような気もするが実際は難しい(投資経験者)
有職 未婚	どちらかと言うと「いいえ」(投資未経験者)	作ってみたいと思うが、行く時間がない。作ったらもっと積極的になると思う(投資未経験者)

図表 10 「自分名義の金融資産口座をつくること」は資産運用のきっかけになるか



【自分の年金支給額を知る】

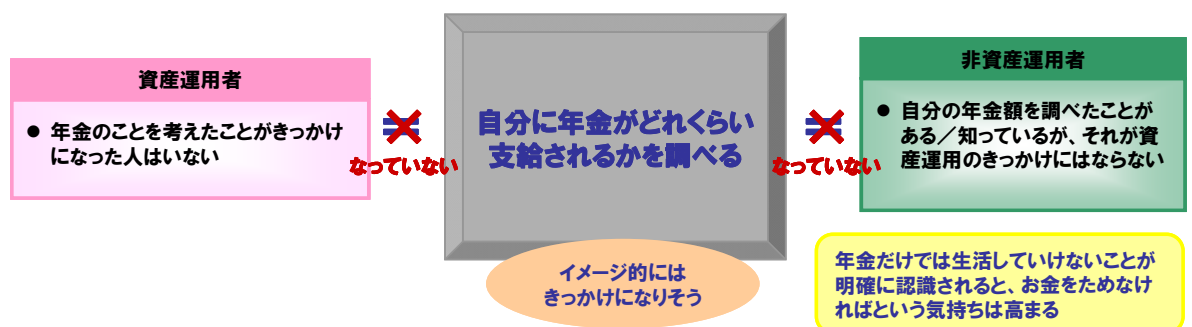
3つ目の提案は「自分にどれくらいの年金が支給されるかを調べること」だが、これに対して、第一印象として、多くの被験者が資産運用のきっかけになりそうと考えていた。年金だけでは生活していけないということがかなり明確に認識されたことで、資金をためる必要があるという意識の高まりは観察された。

ただ、被験者のなかの運用経験者で実際に年金の支給額が資産運用のきっかけになった人はいなかった。もともと、「年金の支給額は少ないだろう」という諦めが事前であり、この話題が資産運用へ意識を向かわせるよりも、政府に対する不満や怒りを先行させていたようだ。厚生労働省の試算額を提示して議論すると、モデル世帯の年金支給額自体への不信とか、65歳になっても年金は支給されないのではないか、という意見が多く出された。

図表 11 「自分の年金額を知ること」は資産運用のきっかけになるか

	30-44 歳	45-59 歳
無職 既婚	資産運用する気持ちには結びつかない(投資未経験者)。	逆に怖くて投資できないと思った(投資未経験者)。逆に老後は大丈夫だと言われた方が博打(=投資)ができる気がする(投資未経験者)
有職 既婚	本当にお金を返してもらって自分で運用したいくらい(投資経験者)。運用しなきゃというより怒りを感じる(投資未経験者)。変額年金でも何でもやった方がいいのかと思う(投資未経験者)	年金だけでは暮らせないというのは常識的に言われていること(投資経験者)。質素に暮らすことか(投資未経験者)
有職 未婚	どちらかといえば資産運用に向かわせる(投資未経験者)。もうちょっと景気がよくなると運用はしない(投資経験者)	(資産運用する)気になるには景気がよくなると(投資経験者)。まずは働く。投資するよりダブルで働いた方が確実(投資未経験者)

図表 12 「自分の年金支給額を知ること」は資産運用のきっかけになるか



【介護の実態を知る】

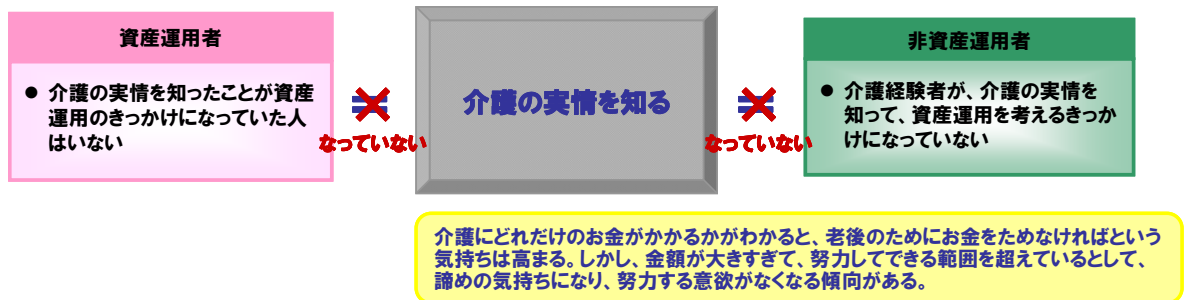
4つ目の提案は、「介護の実情を調べる」こと。定量分析では、介護は老後の費用として最大項目という認識があるものの意外ときちんと調べて知っている人が少ないという事実が浮かび上がっていた。加えて、グループインタビューでは、「介護」という言葉で連想されるのが、親の介護、夫の介護といった介護「する」側のことで、自分が介護「される」ことを想定する人は少なかった。そのために、介護の議論では資金の問題よりも肉体的・精神的負担を考えることが中心で、その費用は親の資産(不動産など)で充当できると考えている。また、年金同様、介護についても、それぞれの経験や知人からの情報を紹介しながらその大変さには言及するものの、その対処法に関してはなかなか話が及ばない。

そうしたなかで、介護施設にかかる費用として月額20万円程度を提示したところ、「想像以上の額であった」との印象を受けたことが観察された。単純計算で、年間240万円、10年で2400万円、夫婦二人で4800万円という計算ができると、その額に愕然とする状態だった。マスコミなどである程度、介護の実情は知っているものの、実際の費用などは介護の経験者、または家族に経験者がいないと把握できていないようだ。この点で、女性が介護の費用を認識することで「お金を貯めなければ」という気持ちが湧くことは観察されたが、その額があまりに大きすぎて、資産運用で何とかするというレベルではないとの受け止め方に傾いていたことも事実。

図表 13 「介護の実態を知ること」は資産運用のきっかけになるか

	30-44 歳	45-59 歳
無職 既婚	まずは働いて、運用はやっぱり余裕のあるお金でやらないと(投資経験者)。投資は怖い(投資未経験者)。無くなってしまったら逆に目も当てられないからやらない(投資未経験者)。	実態を知ると下手なものには手を出せない(投資未経験者)。親の介護のための費用までは出せない(投資未経験者)。子供を当てにするしかないなので、ある程度資金をためて子供のためにとっておく(投資経験者)
有職 既婚	こんなに費用がかかるのなら、なるべく長生きしないようにしたい(投資経験者)。運用してもたかが知れている感じ(投資未経験者)	自分が実際損をしているので無理だと思う(投資経験者)。うまい話には何か裏があると思う(投資未経験者)
有職 未婚	運用するお金は介護に当てるには向かないと思う(投資経験者)。運用をしたいとは思えないだろう(投資未経験者)	貯金は必要だがそれだけでは大きく増やせない。これまで使わなければよかった(投資経験者)。気持ちはあるがそれに回せる余裕がない(投資未経験者)

図表 14 「介護の実態を知ること」は資産運用のきっかけになるか



【働くことと資産運用の択一を避ける(専業主婦)】

最後は、「再び働くとしても資産運用は今から始めませんか」を提案するための仮説を専業主婦のみに提示した。すなわち、専業主婦は「再び自分が働くこと」と「資産運用を行うこと」が二者択一になっているという仮説を被験者の反応で調べた。

年金や介護の実情などで老後にお金が必要だということを知ると、多くの専業主婦は自分が働くことを考えていた。その内面として、「資産運用はお金が無くなることもあるが、働くことでお金が無くなることは無い。少なくとも増やすことが出来る」と考えていることが観察された。

すなわち、働くことと資産運用は二者択一の選択肢というよりは、「働くこと」を優先して考えることで、「資産運用」をしなくていい理由として考えているようだ。その結果として、表面上、「二者択一として考え、そのなかから将来働くことを選択している」という形が出来上がっている。

しかし、実際に主婦が働き出すためには、①家事もあって仕事の時間が限られることから十分な収入が得られない、②子供が小さければ預けるところを探さなければならないことなどから「子供が中学校に入ったら」といった就労しない言い訳を用意して就労時期を先送りしている、その結果、年齢が高くなることで復帰のチャンス、就労の機会が少なくならざるを得ない、さらに③不況の影響もあってなかなか仕事が無い、といった状況に陥っていることも、会話の中から垣間見ることが出来た。

結果として、「将来再び働くこと」を優先的に選択しているものの、「働けるかどうか」の確証がないままに、「資産運用を遅らせる」事態になっているといえそうだ。

3 資産運用への第一歩

資産運用への第一ステップ

上記のとおりフォーカス・グループインタビューの結果からは、5つの提案は「イメージ的には資産運用のきっかけになりそう」だが、「証左となった」という明確な結果は得られなかった。

そこで、再び、定量分析の結果を振り返ってみよう。まず、女性を「資産運用を行っている」グループ、「資産運用は行っていないが退職後のための貯蓄は行っている」グループ、「貯蓄も資産運用も何もしていない」グループ」に分け、1-5の提案を導いた設問の回答とのクロス分析の結果を一覧にした。少なくとも、この5つの提案に関しては、定量分析からは資産運用に向けての何らかの因果関係を見出すことはできる。ただ、表で色分けしたとおり、主に大きな段差は「貯蓄のみしている」女性と「何もしていない」女性の間が存在しており、5つの提案が「老後に向けての資産運用」には直結しないが、「老後に向けての貯蓄」へのインセンティブになっていることを示している。少し遠いが、資産運用への第一歩ということはいえそうだ。

図表 15 4つの提案に関する定量分析の結果一覧

		資産運用をしている (n=1768)	貯蓄のみしている (n=2496)	貯蓄も資産運用もしていない (n=2014)
退職後の生活についての話し合い	夫と話し合う	42.9	43.9	28.9
	誰とも話さない	29.9	30.8	50.6
夫の亡き後の生活費について夫と話し合う		37.4	34.8	17.6
自分名義の金融資産口座がある		95.0	76.9	52.3
退職後の生活費について	年金でまかなうべき	34.8	45.0	52.9
	自助努力も必要	47.1	39.5	32.2
介護費用について	実際に調べたり利用したことがあり知っている	13.6	10.2	6.3
	まったく検討が見つからない	48.4	54.2	61.1
専業主婦将来働く	想定している	31.8	37.4	45.9
	想定していない	50.1	37.8	27.9

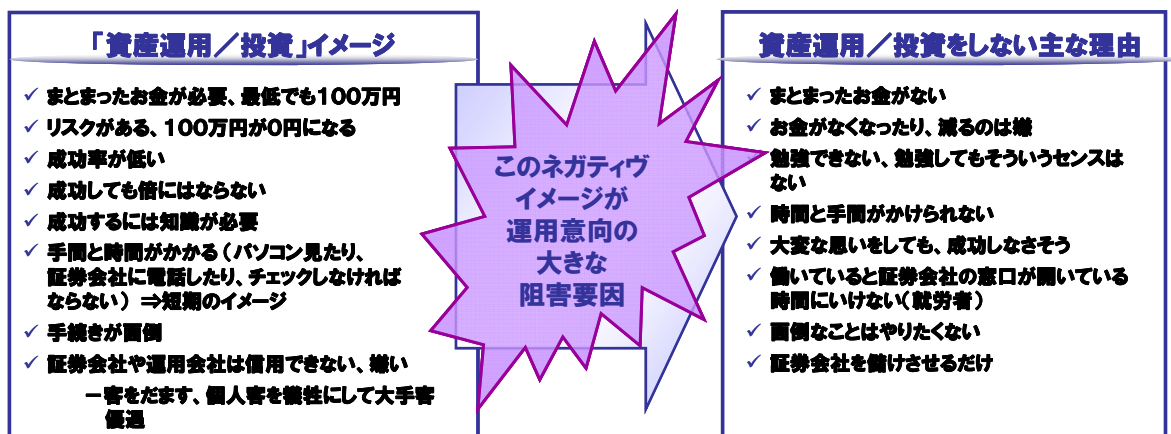
(注)「夫亡き後の生活費について夫と話し合う」の設問では、既婚者のみが対象なのでそれぞれの母数が、「資産運用をしている」1245名、「貯蓄のみしている」1864名、「貯蓄も資産運用もしていない」1551名。また専業主婦将来働く」の設問に関しても、対象が専業主婦のみとなり、それぞれの母数は「資産運用をしている」732名、「貯蓄のみしている」1250名、「貯蓄も資産運用もしていない」1116名。

(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所「女性と老後と資産運用」に関する調査(2009年4月実施)

資産運用への第二ステップ

グループインタビューでは、資産運用へ進むための第2ステップがなかなか大きな関門になっていることも観察された。資産運用に対するネガティブなイメージの払拭である。この点は、前半でまとめた自由回答の中でも非常に多くの回答者が、「資産運用＝リスク」というイメージを強く持っていることが示されている。資産運用を行わない理由として、お金がない、リスクが怖い、知識がない、考えたこともないといったところが挙げられていたが、特に明示的だったのが、「資産運用にはまとまったお金、たとえば100万円以上が必要」、「リスクが高く、その100万円が0円になる可能性もある」、「その割りに成功率が低い」、「手続きが面倒」といったコメントだろう。

図表 16 資産運用に対するイメージ



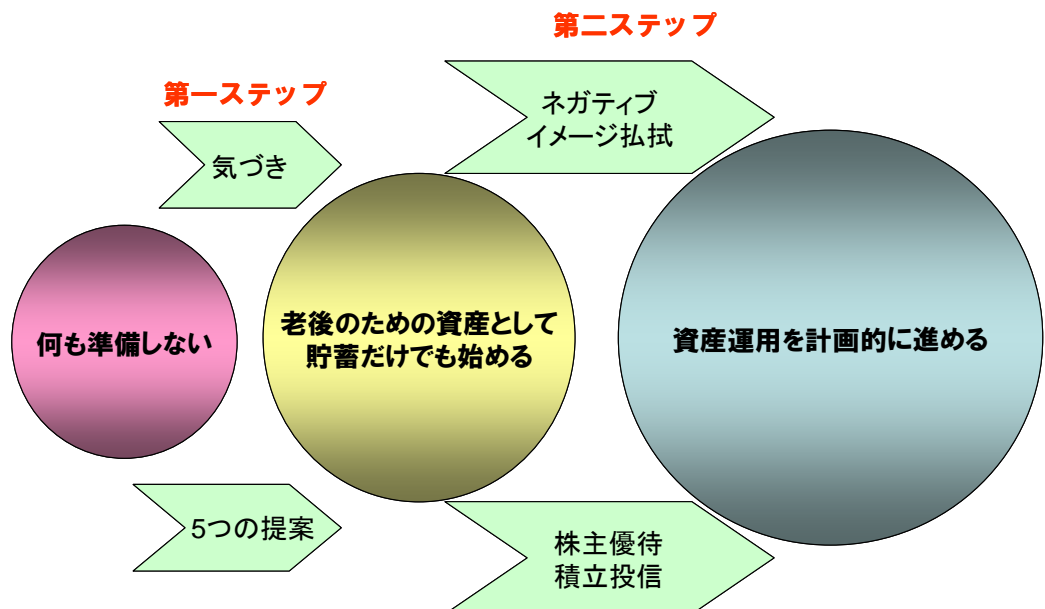
その一方で、資産運用を始めたきっかけに関しても各グループ2名ずつ配置した運用者から示唆のあるコメントが聞かれた。例えば、投資に関しては「親が経験者で、親から薦められたこと」、「バブル時代に友人から薦められたこと」、「ATMの手数料が無料になるメリットを知ったこと」、「金持ち父さん、貧乏父さんを読んだこと」、「会社で確定拠出年金が始まったこと」などが挙げられた。また、資産運用を継続している理由としては、「楽しい。生活の楽しみの一つ」、「株主優待がある」、「銀行よりはるかに儲かる」、「日本経済は回復すると思っている」などが指摘された。

さらに、インタビューの最後にモデレーターから積立投信について説明をすると、非常に多くの被験者が関心を示した。説明した内容は、「月々2万円の積立で20年間積み立てると合計480万円になるが、4つの代表的な資産にバランスさせて運用した場合の過去の実績は平均で1000万円だった」というもの。これに対して、ほとんどの被験者が「月数万円でできる投資信託があることを知らなかった」ことが観察され、資産運用に対するイメージである「まとまったお金がないとできない」、「なくなってしまふリスクがある」、「成功しても2倍にはならない」、「知識と時間が必要で手間がかかる」といったものとはまったく異なる資産運用があることに驚き、やってみてもいいという反応を示した。また、多くの被験者から「こういった投資商品が実際にあるということをもっと教えるべきだ」というコメントも聞かれた。

積立投信に対するコメント

- ◆ やりたい(30-44歳、無職・既婚、投資経験者)
- ◆ 何でみんなそんな良い商品ならやっていないのだろう(30-44歳、無職・既婚、投資未経験者)
- ◆ ちょっと興味を持った(30-44歳、無職・既婚、投資未経験者)
- ◆ それでも考えない(30-44歳、無職・既婚、投資未経験者)
- ◆ やっている(45-59歳、無職・既婚、投資経験者)
- ◆ その積立投信というのは魅力的(45-59歳、無職・既婚、投資未経験者)
- ◆ やはり掛け(45-59歳、無職・既婚、投資未経験者)
- ◆ 財形と似ている感じがする(45-59歳、無職・既婚、投資未経験者)
- ◆ 興味ある(45-59歳、有職・既婚、投資未経験者)
- ◆ もっとわかりやすい説明があればいいのに(45-59歳、有職・既婚、投資未経験者)

図表 17 資産運用に向けての2つのステップ(アンケートとフォーカス・グループインタビューから)



重要情報

- 当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。
- 当資料に記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。また、いずれも将来の傾向、数値、運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。
- 当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまでも参考として申し述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。
- FIL Limited およびFMR LLCとそれらの関連会社のネットワークを総称して「フィデリティ」ということがあります。
- 当資料にかかわる一切の権利は引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部又は全部の無断での使用・複製は固くお断りいたします。
- 投資信託のお申し込みに関しては、下記の点をご理解いただき、投資の判断はお客様自身の責任においてなさいますようお願い申し上げます。なお、当社は投資信託の販売について投資家の方の契約の相手方とはなりません。
- 投資信託は、預金または保険契約でないため、預金保険および保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。
- 販売会社が登録金融機関の場合、証券会社と異なり、投資者保護基金に加入しておりません。
- 投資信託は、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。
- 投資信託は、国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。又、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては目論見書や契約締結前交付書面を良くご覧下さい。
- ご投資頂くお客様には以下の費用をご負担いただきます。
- 申込時に直接ご負担いただく費用： 申込手数料 上限 3.675%(消費税等相当額抜き3.5%)
- 換金時に直接ご負担いただく費用： 信託財産留保金 上限 1%
- 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用： 信託報酬 上限 年率2.0265%(消費税等相当額抜き1.93%)
- その他費用： 上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。目論見書、契約締結前交付書面等でご確認ください。

ご注意)上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

費用の料率につきましては、フィデリティ投信が運用するすべての公募投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率を記載しておりますが、当資料作成以降において変更となる場合があります。投資信託に係るリスクや費用は、夫々の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に良く目論見書や契約締結前交付書面をご覧下さい。

フィデリティ投信株式会社 金融商品取引業者

登録番号： 関東財務局長(金商)第 388 号

加入協会： 社団法人投資信託協会、社団法人日本証券投資顧問業協会

BCR090630-1